



とのひら よしひこ
殿平 善彦 さん

強制労働者の遺骨を 韓国に返還した住職

「過去の歴史に学び、東アジアとの和解を生み出したい」

40年にわたり、戦時下に北海道のダム建設や炭鉱などで強制連行・強制労働させられ犠牲となった朝鮮半島出身者や日本人の遺骨を発掘。戦後70年の今年、115体の遺骨を祖国・韓国に届けた。「ソウルの追悼式後に日韓両国の人たちの和んだ表情を見た。これが和解という形だろうかと感じた」としみじみ語る。北海道深川市・一乗寺住職。

昭和51年、宮川恵秀さん（幌加内町・秀法寺住職）と訪ねた同町の無住寺院で70余りの位牌いはいを発見したことが活動のきっかけ。地元の協力を得て発掘を始め、平成9年には発掘作業を通して両国の若者に友情を育ててほしいと日韓共同ワークショップを開いた。「今、若者がすべきことはスコップを握ることで、武器を持つことではない。宗教者としてこれからも向き合っていきたい」。70歳。 （2面に記事）

